保育実践（身体づくり）

研究会









８月２１日

８月の研究会は、講師の先生の講義「乳幼児期の運動経験から育つ 認知能力・非認知能力」から始まりました。指導案立案時に「育てたい力」を明示することで「保育者の願いや配慮点」に非認知能力を 意識した記述が増加し、保育者の援助が変化することや、子どもの姿を中心に振り返ることが子ども中心の保育につながること等様々なお話をしていただきました。

講義の後は、すもう（ケンケンずもう、手押しずもう等）、おしくらまんじゅう、新聞紙遊び、メチャビー（チームに分かれ、チームのエリアにボールを運ぶゲーム）等、実技を行いました。その後は、グループごとにメチャビーの活動から考えるワークをし、36 の基本動作の中のどの動きが含まれているのか、その中で育つ非認知能力はどのようなことかを考えました。